

イタリア語ワンポイント講座

「母音をつなげてなるべくレガートに歌おう」

イタリア語は母音が非常に大切な言語です。二重子音の前の母音以外は母音を音符一杯に伸ばすように心掛け、凹凸なく極カレガートを心掛けましょう。

「二重子音以外の子音は強く言わない」

2つの子音が重なる場合を除いて、子音はあまり強く言わないようにしましょう。ただ、子音が重なった場合は時間をかけて子音を言うようにしましょう。

例、allodole, signore, ognuno, など

「二重母音は丁寧に」

母音が2つ重なる場合は、はしよらず、ひとつひとつを丁寧に発音しましょう。

二重母音の例 mio, fiore, l'augello, noi など

二重母音の例外(はしよるもの)giunge, dischiuso など

「基本的に母音はリエゾンします」

母音に挟まれた R は日本語のラリルレロ

例 caro(カーロ)

「o(感嘆詞),a,che の後の子音は二重子音になります。」

例 o bella → o bbella

a voi → a vvoi

o che bella → o cche bbella

a casa → a ccasa